

平成20年度第1回 産業応用部門論文委員会主査会議議事録（案）

1. 日時 平成20年4月8日（火）16:00 - 17:15
2. 場所 電気学会第1会議室
3. 出席者(敬称略)
林（編修長，青山学院大学），大石（編修長補佐，長岡技術科学大学），五十嵐（D1副主査，富士電機デバイステクノロジー），藤崎（D1次期副主査），大山（D2主査，東京工科大学）
織田（D2副主査，松下電器産業），山崎（D3主査，千葉工業大学），松岡（D3副主査，東芝），高瀬（D3次期副主査，摂南大学），佐藤（千葉大学），岩路（日立製作所）
4. 提出資料
20-1-0 議題票（田中）
20-1-1 前回議事録（案）（佐藤）
20-1-2 平成20年度論文委員会改選案
20-1-3 平成20年度D部門委員会主査会名簿
20-1-4 電子査読システムの運用状況（山崎）
20-1-5 2007年度第3回D部門編修広報委員会議事メモ(林)
20-1-6 平成19年度第3回編修会議議題(林)
20-1-7 Proposal to provide English editing service to the journal. (林)
5. 議事
 - 5.1 前回議事録の確認（資料20-1-1）
 - ・ 予めメールで配信済み議事録について承認された。
 - 5.2 平成20年度論文委員会改選案の確認
平成20年度の各グループ幹事団の人選案（資料20-1-2）について説明があり，これを了承した。
例年通り、電気学会全国大会論文委員会D部門の主査を（第6グループ～第8グループ）の主査に推薦することが決まりました。

例年通り、以下の様になります。
第6グループ→D1主査田中先生（山口大学）
第7グループ→D2主査大山先生（東京工科大学）
第8グループ→D3主査山崎先生（千葉工業大学）
 - 5.3 平成20年度D部門委員会主査会名簿の確認
平成20年度のD部門委員会主査会のメンバー（資料20-1-3）の確認がされた。
なお，以下の確認をする。
 - ・ 副主査がメーカーのメンバーしかいない。次年度論文委員長は，D1の主査がなることとなるが，通例でメーカーの委員は論文委員長にはならなことをしている。全国大会のYPC委員長としても担当するかを合わせてメーカーの委員があたるか検討する。
 - ・ モーションコントロールの委員（香川大 高橋先生）が入らなくて良いか確認する。

5.4 投稿論文の協議

「ワイヤー放電加工」についての論文投稿があったが、D部門では技術分野が違い判定できないため、担当学会を調査・連絡し、D部門では受け付けられないことを連絡する。

5.4 電子査読システム運用状況について（資料 20-1-4）

- ・ 資料に基づき、大石編集長補佐より説明があった。20年度1月-3月でD1:30件、D2:21件、D3:8件と今年もD1が多い傾向である。状況を見て必要なら対策を考えることとする。

5.5 2007年度第3回D部門編修広報委員会議事メモ（資料 20-1-6）

- ・ 資料に基づき、林編集長より説明があった。

5.6 平成19年度第3回編修会議議題（資料 20-1-6）

- ・ 資料に基づき、林編集長より説明があった。
- ・ 共通英文論文誌 2010年から3月号E部門5月号をD部門に入れかえの打診があった。
- ・ 共通英文論文誌のIF向上策として、英語論文の論文賞の実施検討とIF計算方法アナウンスとIF向上の努力要請があった。
- ・ Wiley社からの新翻訳誌に、年間60件を選定して翻訳出版することが提案された。
- ・ 編修活性化資金の設定と会計規程の一部改正についての説明があった。
資金として、1部門1,155,400円の設定さ、他部門は懸賞論文や論文賞の副賞として使われるとのこと。
- ・ 電子投稿・査読システムの運用についての申し合わせがされた。
本システムの維持費は、平成22年度以降は各部門均等で負担する。
また、J-STAGE上での論文売上状況が報告された。

5.7 Extended Summary と Abstract のネイティブチェックについて（資料 20-1-3）

- ・ 資料に基づき、林編集長より説明があった。
- ・ CACTAS, A社, B社の見積りの報告があった。
- ・ CACTASより、無料でサンプルの翻訳を実施してもらえことから、サンプルの論文を選び実施する。
- ・ Extended Summary と Abstract のネイティブチェックを、まずアナウンスし実施する。
翻訳できない意味不明のものは、著者に再考してもらおうが、やり方については検討する。

5.7 メーリングリストのチェック

- ・ 大石編集長補佐より、論文委員のメーリングリストのチェックについて説明がされた。
委員の使用されていないアドレスや返信がないアドレスのチェックを実施する。
方法については、チェーンメールとならないように注意して実施する。

5.8 査読業務および査読システムに関する意見

- ・ 電子査読システムから発信される電子メールについては、和文にすることを強く求めていく。
また、差読者に諾否の返信期限（5日～10日）を記載してもらおうよう求める。
- ・ 論文委員の募集は、公募もするが自薦は少ないため、幹事が主体的に推薦して募るようにする。現在の論文委員名簿は、会誌編修課に各主査が依頼すればもらえる。論文委員名簿

をチェックして、委員の選定をすることが提案された。

5.9 論文委員の承認

- ・ 論文委員として豊田さんが承認された。

6. 次回開催予定

次回は以下の日程で開催することを予定する。

日時：6月3日（火）13：00～15：00

場所：電気学会会議室

以上